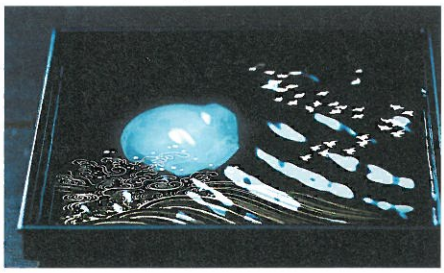
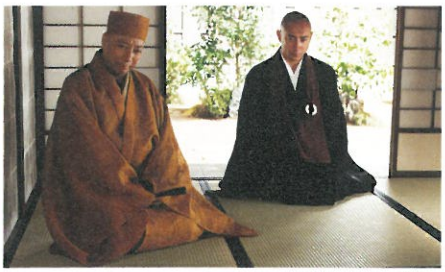
美の本質に迫る極上のミステリーにして、究極のラブストーリー。

全く新しい利休が、ここに誕生する。

利休の茶は、若き日の恋から始まった――。原作は、確かな時代考証に基づく斬新な切り口で、稀代の茶人の出発点を浮き彫りにした、山本兼一の「利休にたずねよ」。もはや歴史小説の枠を超え、第140回直木賞を受賞した傑作が今、長編映画として新たな生命を宿した。海外では、日本の美を体現する映画として大きな注目を集め、第37回モントリオール世界映画祭、最優秀芸術貢献賞を受賞した。主人公・千利休を演じるのは市川海老蔵。利休を見守り、寄り添う妻・宗恩には中谷美紀。利休に惚れ込む戦国の覇者・織田信長に伊勢谷友介。利休への愛憎をあらわにする天下人・豊臣秀吉に大森南朋。そして利休の師・武野紹鷗を市川團十郎が演じる。“人間・利休”が遺した謎と、生涯にわたり秘め続けた恋。今まで全く見たことのない斬新な利休像が誕生した。

雷鳴がとどろく雨嵐の早朝。茶人・千利休は、自らの腹に刃を立てようとしていた。その絶対的な審美眼から、かつては戦国の覇者・織田信長に重用され、のちに天下人となった豊臣秀吉のもと“天下一宗匠”として名を馳せながらも、秀吉の怒りを買い、死に向かう利休。そんな夫に対して妻・宗恩がたずねる。「あなた様にはずっと想い人がいらっしゃったのでは…」この言葉が、利休の胸中に秘められた、遠い時代の記憶を蘇らせていく……。

12月7日[土]
全国公開

限定【利休の美がわかる豪華ガイドブック】付
前売券発売中! [A4 24ページ]
一般1,300円[税込]
※劇場窓口にて(一部劇場を除く)　※なくなり次第終了致します。